

## 巻頭言

# 新年に 当たって

杉本 時哉

(協同総研理事長)

新しい年のはじめに当たって、会員の皆様に心をこめてご挨拶申し上げます。

昨年は、「いま『協同』を問う'96全国集会・21世紀の協同へ 東北からの発信」で初めての実行委員長を勤め、私自身は何を為しえたか振り返っても、ただ慌ただしく一年を終わった印象を隠せませんが、集会そのものは会員の方々はじめ、新しい協同の出会いで知り合った方々、労働者協同組合で準備の苦勞を引き受けて下さった方々、坂林専務はじめ事務局メンバー、そうした多くの方々の熱い思いと努力に預かって大成功を収めることが出来ました。この総括は次回の「特集」に委ね、まずは心から感謝申し上げます。

それにしても、1996年を振り返ると、この集会準備に明け暮れたように見えながら、21世紀に向けての転換を示唆する様々な動き、社会の古いシステムの綻びと新しいシステムを模索する息吹を感じさせる年でした。川田君の勇気ある告発に発したエイズ問題は、厚生行政の在り方を問い、加えて専門家の傲慢を暴きました。沖縄の勇気ある少女の行動が日米安保の在り方、基地問題の深刻さをあらためて突きつけました。オンブズマン活動が官々接待や食料費、カラ出張等の政府・自治体の財政運営を暴露し、福祉行政をめぐる補助金行政の腐敗ぶりまで明るみに引き出し、一昨年から引き続く住専問題とともに、行政改革、財政改革の課題の緊急性を浮かび上がらせました。

しかし、一方でWTO協定をはじめとする規制緩和、競争主義、消費税導入、安保再定義など、転換の在り方をめぐる新旧システムの力の鏝り合いが激しく続いています。政治地図の不安定、新たな変化を見せた配置、今後も続くだろう流動化予測は、政治不信による投票率の低さに象徴される民主主義の行方とともに、まだまだ気の許せない状況にあります。

協同総研としても、「労働者協同組合法」制定への本格的準備に入り、21世紀の新しいシステムを求めて、会員の方々の労作「労働者協同組合の新地平」を契機に「社会的経済」への研究を前進させて来ました。高齢者協同組合設立の運動も引き続き新しい地平を切り開き、福祉、食、環境など、生活の全面にわたる人間らしい条件の創造を目指して、NPO組織の人々との新しい連帯の絆も前進させることが出来たように思います。

協同総研としての課題はまだまだ限りなく多く、目標とした改善・改革課題も多く残しています。幸い、労働者協同組合運動発祥の地・鬼子母神の新しい事務所への移転も昨年内に完了しました。これを機に、思いを新たに1997年の研究課題、運動課題の前進のために、元気に取り組んで参ります。

会員の皆さんのいっそうのご健勝、ご活躍と、「協同」のさらなる発展を期して、新年に当たってのご挨拶とします。